

Advance

人から受けた恩は、バトンになる ～最初のバトンをつくる7年生の姿～

今、7年生は教科横断型プロジェクトの授業で、12月の「SOLANフェスタ」で感じたことやその価値を振り返りながら、

- ・これから、どのように地域と関わっていくのか
- ・来年度、文化祭をどのように立ち上げていくのか
- ・今後、7年生として、どのような活動でSOLANを盛り上げていくのか

について、16人全員で議論を重ねています。

SOLANでは、7年生に「先輩」と呼べる存在がいません。前例も、完成されたモデルもない中で、常に7年生が先頭に立ち、道を切り拓いています。

だからこそ、この話し合いには、「自分たちが楽しむため」だけではない視点が自然と表れています。

この活動において、次の世代にどのようにつながるのか、自分たちが残すものでどんなSOLANになるのか、そんな「問い」を抱えながら、言葉を交わす姿に、7年生の大きな成長を感じています。

これまでのClassNewsletterでは、資質・能力という観点から、子どもたちの「できるようになってきたこと」を多くお伝えしてきました。今回は少し視点を変え、子どもたちの心のあり方（情意面）について、ご紹介したいと思います。

少し前に読んだ本で、今も心に残っている一冊があります。7年生の話し合いの姿を見ていると、その文章が自然と思ひ浮かびました。

子どもたちが、誰かのために、そして未来のために考え始めている今だからこそ、ぜひご紹介したい言葉です。

人は、自分を喜ばせること以上に、大切な人を喜ばせることに、より深い幸せを感じるようになっていくのではないかな、と思います。

1万円で、自分の欲しかったものを買う。これも幸せです。

だけど、同じ1万円で大切な人を喜ばせることができたときは、もっと幸せではないでしょうか。

人それぞれかもしれないけれど、僕にはどうも、人間はそんなふうに設計されているように感じられるのです。

だったら、その本来の設計どおりに生きたほうがより幸せになれるでしょう。

とはいえ、自分が満たされているという前提がなければ、人を喜ばせるということに疲れてしまいます。

さっきの例だって、明日のご飯にも困る状態では、いくら大切な人のためでも、1万円も使うことはできません。(中略)

与えたら見返りがほしい。与えたら認められたい。

これは、自分が満たされていないから、思うことです。

満ちていない状態で、人を幸せにしようとする、いまだ満ちていない自分の欲求不満を、相手に思いっきりぶつけることになってしまうのです。

一番の理想は、

「相手を幸せにすることそのものが自分にとっての幸せであり、そのあとは、ぶっちゃけどうでもいい。見返りや承認なんて求めるまでもなく、幸せにするだけで幸せなんだよ～」

という状態です。

つまり、まわりの人を幸せにすることで何より自分が幸せになるということ。

もっといえば、自分が幸せでいたいから、まわりの人を笑顔にするということですよ。

そのためには、まず自分を満たすことが大事だし、自分が喜んでできる範囲を見極めることも欠かせないでしょう。

参考：「半径3メートル以内を幸せにする」本田晃一 著（きずな出版）

誰かが整えてくれた環境の中で学ぶのではなく、「これからのSOLANをどうつくっていくか」を、自分たちで考えている7年生。その姿には、成果や結果では測れない、大切な育ちが現れています。それは「自分たちが満たされながら、その先にいる誰かのことを思い描く力」です。

7年生は今、自分たちが受け取ってきた経験や支えを、「次の世代へどうつないでいくか」という視点で捉え始めています。

誰かから受けた恩をその人に返すのではなく、次の誰かへと手渡していく。それが「恩送り」なのだと思います。

SOLANの中等部の文化は、まだ完成されたものではありません。だからこそ、7年生の一つひとつの選択や話し合いが、この学校の未来を静かに形づくっています。

最初のバトンをつくり、それを次の世代へ手渡していく。その姿は、これからの社会を生きていく上で、何より大切にしたい在り方そのものだと感じます。

保護者の皆さまには、子どもたちが今、目に見えにくいところで育んでいるこの「心の成長」にも、ぜひ目を向けていただけたらと思います。

このような姿は、すぐに目に見える成果として現れるものではありません。それでも、今ここで考え、悩み、言葉を交わしている経験は、きっとこの先のどこかで子どもたちを支えてくれるはずです。

7年生が切り拓いているこの時間を、学校として大切に育んでいきたいと思っています。

【試験運用】覗くClassNewsletterはこちら👉

We will value "Purpose" and "Ownership" for you